

第1回

三宅島オートバイレース大会(仮称)実施基本案



三宅島オートバイレース実行委員会
三宅村
東京都

平成19年2月

大会の意義

復興の途上にある三宅島

三宅島は、東京の南南西約180kmに位置する周囲約30kmの火山島です。紺碧の太平洋に囲まれ美しいダイビングポイントも数多く、また、約230種もの野鳥を観察できる自然豊かな“バードアイランド”です。平成12年6月に始まった噴火により、全島民が島外への避難を余儀なくされました。4年以上もの長期にわたる避難生活の末、平成17年2月にやっと帰島を果たしましたが、噴火の爪あとは島の随所に残ったままです。島の人口は、噴火前の4分の3程度に減少し、観光客も半減しました。三宅島は依然として噴火からの復興の途上にあります。



高濃度地区にある廃屋のままの民家

島の未来を切り拓くバイクの祭典

いまや日本メーカーのオートバイが世界を席卷していますが、その原点とも言うべきものは、昭和30年代からの日本メーカーによる“マン島TTレース”など国際的なレースへの挑戦でした。

この島で毎年行われる“マン島TTレース”は、世界最古の公道を使用したオートバイレースとして有名であり、世界中から多くのバイクファンが集まる、地域の人々と一体となった、まさにオートバイの祭典です。

このTTレースが100周年を迎える記念すべき年(2007年)に、日本の三宅島で公道を使ったオートバイレース大会を開始します。

マン島と三宅島では、国も異なり文化も違います。オートバイを取り巻く文化も同様に異なります。“マン島TTレース”とは違う、また、サーキットでのレースとも違う、三宅島らしい、特に安全に配慮した、日本のオートバイ文化に新たな1ページを加えるようなバイクの祭典を目指します。

オートバイレース大会を開催し、観光・産業の起爆剤として、島の復興への歩みをより確かなものとしていきます。

レースのほかにも、三宅島の自然や食を活かした様々なイベントを行い、バイク好きだけでなく、島を訪れた全ての人々が集い、語り、楽しめる、三宅島でしか味わえないお祭りを、全島民挙げて演出します。

この大会が継続的に開催され、将来、三宅島がマン島と並んで“モーターサイクルスポーツの島”として名を馳せ、多くの人々が集まる大会となることを目指します。



火山ガスにより立ち枯れた森林

三宅島オートバイレースの魅力

走る者と観る者との一体感が極まるレース

三宅島オートバイレースは、走るために専門に作られたサーキットで100分の1秒のスピードを競い合うレースとは趣旨を異にします。

舞台となる三宅島の周回道路には、変化に富んだ海岸線、紺碧の海、噴火で立ち枯れたままの森林、赤錆た色調の溶岩流など、三宅島ならではの自然の美しさと凄さを感じさせる景色が数多く点在し、走る者と観る者の心を捉えます。

研ぎ澄まされた技術と厳しい自制心をもつライダーが、周回道路の連続するコーナーやアップダウンのきついコースを、巧みに攻めていきます。

まさにすぐ目の前の一般道路を、ライダーたちが華麗に疾走していくのを見て、観客は、サーキットとは違った今までにない魅力にとりつかれるでしょう。

これこそ、走る者と観る者との一体感が極まる瞬間であり、大きな醍醐味を味わえることは、確実です。



三宅島・三七山付近



三宅島・メガネ岩

オートバイの魅力と安全走行を伝えるレース

ライダーに求められる目標は、如何に他者よりも速くコースを走り抜けるかではありません。

鮮やかなコーナリング、力強いスタートダッシュなど、美しく高度な技を魅せることはもちろんのこと、

一般道路を最後まで完走できる、厳しい自制心に裏打ちされた安全で確実な走りを示すことも求められます。

この目標を完遂し、最後まで完走したライダーには、真の勇者、究極の達人として、名誉を讃えられます。

レース開催と各種イベントを通じて、オートバイ魅力を伝えるとともに、安全走行の意識を高め、多くの人々にオートバイの楽しさを提供します。



三宅島・阿古海岸付近

大会の概要案

パレード

一般参加型のイベントとして、バイク・パレードにて三宅島を走ります。
日本のオートバイ産業の黎明期に活躍したクラシックバイクによるパレードや、女性ライダーによるパレードも行うことも検討しています。

レース

三宅島周回道路を、阿古海岸を基点に反時計回りでタイムを競います。
参加車両は排気量125cc以下とする予定で、技術仕様の詳細については現在検討中です。
ライダー資格は、このレースの趣旨に理解・賛同し、三宅島オートバイレース実行委員会が認定した者とする予定ですが、詳細については現在検討中です。
スタート方法は、マン島TTレースと同様にタイムトライアル方式(一定間隔で1台ずつ出走)で行います。

エキシビジョン

内外の著名なロードレースライダーや公道レースライダーを招聘して、デモンストレーション走行を行います。
600～1000ccクラスの大排気量マシンにより、マン島TTレースさながらの臨場感を味わうことができます。

各種イベント

大会期間中は、バイク関係者等のご協力により様々なイベントを開催するとともに、三宅島の食と自然を活かしたもてなしを企画していきます。
また、大会開催に向けて、三宅島へのバイクツーリングなど、プレイベントを実施し、機運を盛り上げていきます。

開催スケジュール

2007年11月9日(金)～11日(日)

11月 9日(金):公式車検・公式練習

11月10日(土):公式練習・パレード・前夜祭

11月11日(日):エキシビジョン・レース・表彰式

安全対策等

観客・ライダーへの安全対策

三宅島オートバイレースは、“マン島TTレース”や“マカオGP”と同様にサーキットではなく一般道路を活用するレースであり、

ライダーはこのことを踏まえて走行する必要があります。

また、万一に備えて沿道に必要な安全対策を講じます。

三宅村と東京都は、MFJの協力により実地調査を繰り返し実施し、現在、安全対策について検討を重ねています。

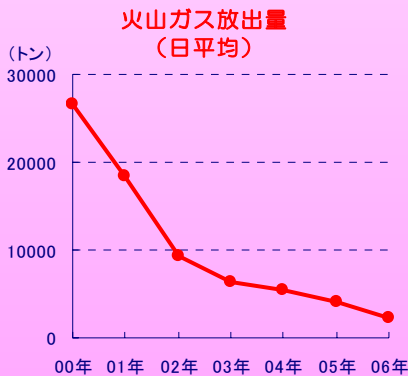
安全対策の例

- コーナー等へのスポンジバリアの配置、白線やマンホールの難滑化など
- 脇道等の封鎖を行い、沿道に講習と訓練を施した多くのマーシャルを配置
- 万一の事故に備え、コース数か所にドクター等が同乗したレスキューカーをきめ細かく配備するとともに、島内の緊急医療体制を整備
- けが人を本土へ搬送するための救急ヘリコプターの待機



サーキットで使われている
スポンジバリア

火山ガス対策



火山ガスの放出は現在でも続っていますが、その放出量はピーク時に比べて10分の1以下になっています。

島内の14のポイントで常時火山ガス濃度を測定しており、8つのエリアごとに防災行政無線放送を通じて注意報や警報を発令する体制を整えています。

現在、避難が必要な状況は発生していません。

大会期間中においても、万一の事態に備えて、万全の体制をとります。

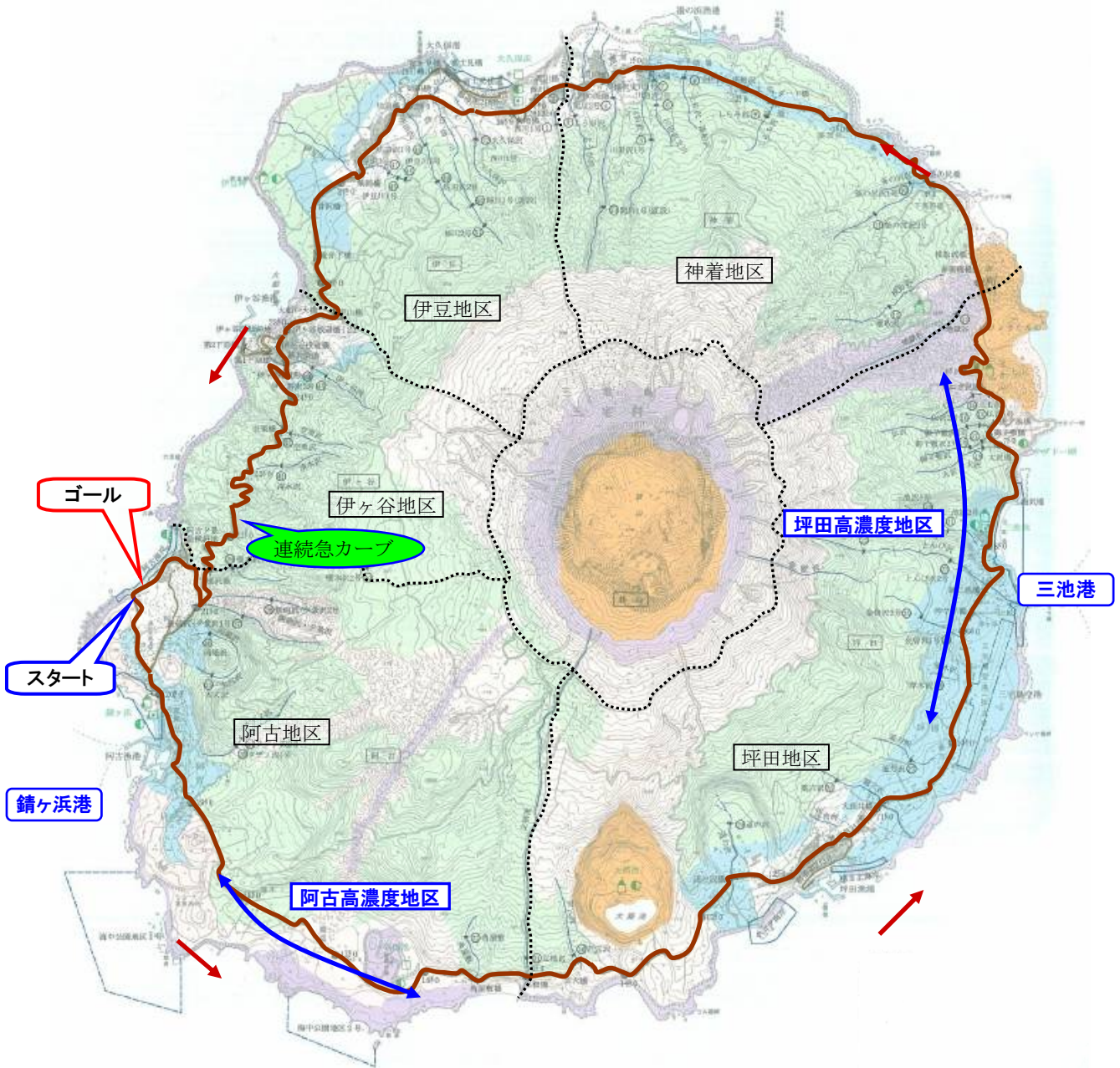
大会運営体制

大会の主催組織として、島内の体育協会、青年団体、商工会等のメンバーで構成する三宅島オートバイレース実行委員会を立ち上げました。

今後、実行委員会は早期のNPO法人格の取得を目指します。

東京都は、実行委員会と三宅村を強力に支援していきます。

三宅島オートバイレース・コース図



コース延長	30.4 km
標高差	約160m
起点・終点	阿古海岸沿い
周回方向	反時計周り



三宅島・大路池付近



三宅島・三池浜付近